

数学科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解できるようにするために、どのような工夫が見られるか。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができるようにするために、どのような工夫が見られるか。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学を活用して事象を論理的に考察する力を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p><数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的活動を通して、上記3つの観点で示された資質・能力をバランスよく育成するために、どのような工夫が見られるか。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵・写真・図表等の扱いに、どのような工夫が見られるか。 ○学習効果を高めるために、統計資料等には、どのような工夫が見られるか。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見やすいレイアウトや読みやすい表現にするために、どのような工夫が見られるか。 ○記号、用語、単位等の表現には、どのような工夫が見られるか。 	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>新しい数学</h1>	<p>2</p> <p>東 書</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ 小中接続を意識して、中学校1年生に「0章 算数から数学へ」を設けている。章の学習では、「例」と似た問題に「◆」マーク、典型的な誤答を「×まちがい例」、既習事項の再確認を「ちょっと確認」で取り上げている。節末「基本の問題」、巻末「補充の問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ 「深い学び」は右ページにあり、次のページの考えが見えないように工夫されている。「数学マイノート」では、思考の過程や振り返りの記述例を示している。巻末「大切にしたい見方・考え方」では、問題解決の進め方とともに発表の仕方や聞き方、振り返りや、学びを深める視点などが分かるように工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ 節の最初に、学習への意欲を高めるための導入課題が設定されていて、身の回りの問題を解決する活動から学習につながるように工夫されている。節末「数学のまど」では、学習に関連した読み物や問題を掲載している。章末「学びをひろげよう」では、社会で数学を活用している人を紹介し、数学の有用性を実感できるように工夫されている。</p> <p>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ 「Q」では、自ら考えたり調べたりする活動を通して、新たな知識・技能が身に付くように工夫されている。「深い学び」では、問題発見・解決の過程を意図した活動が示されている。章末「学びをひろげよう」では、「アーティスト」、「気象予報士」など実社会で活用している数学を紹介している。「時差」、「光」、「AED」など他教科の学習と関連した内容が、マークと教科名で示されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「車いすマラソン」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「D」マークが付けられている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文には、UDフォントが使用されている。</p> <p>○見通しをもって学習を進めるために、「学習課題」は黄色の枠で、解決すべき問題を示した「Q」は緑の枠で囲まれ、それぞれゴシック太字で強調されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に青色とピンク色のインデックスが章ごと交互にある。</p>	
<p>総 括</p>	<p>巻頭で「この本の使い方」、「大切にしたい数学の学び方」、「ノートの作り方」が掲載されている。章の導入には、主体的な学びのために「章とびら」や「学習課題」と「Q」が設けられている。章末には、数学のよさを実感できるように、社会で数学を活用している人を紹介する「学びをひろげよう」が設けられている。巻末には、深い学びを振り返ることができるように、「大切にしたい見方・考え方」が設けられている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">数学の世界</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大日本</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ 章の学習内容を「活動」、「例」、「例題」、「Q」で身に付け、「プラス・ワン」で補充することができるように構成されている。「補充問題」では、自主的に取り組める問題を設けている。節末「たしかめよう」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ 巻頭「数学の世界へようこそ」では、問題発見・問題解決の流れ、数学的な見方・考え方が示されている。節内には、他者の考えが妥当かを判断する問題「判断しよう」や、他者の考えの内容を説明する問題「伝えよう」、学習を振り返ったり、ひろげたり、活用したりする問題「学びにプラス」が設けられている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ 導入では、新しい学習への興味・関心を引き出すように、身近な題材が扱われている。また、数学の面白さや楽しさを味わえるように、読み物「MATHFUL」が設けられている。巻末「課題学習」、「活用・探究」では、各章の学習を総合したり、日常生活や社会、他教科の学習と関連付けたりする課題を取り上げている。</p> <p>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ 巻頭「数学の世界へようこそ」で問題発見・問題解決の流れを示し、見いだした問題の解決の仕方が身に付くように工夫されている。また、「ノートの作り方」では、学習を振り返ることができるノートの書き方の工夫が紹介されている。章末「社会にリンク」では、仕事の中の数学を紹介している。巻末「課題学習」では、各章の学習を総合したり、生活や他教科の学習に関連したりする問題を扱っている。</p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○6人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○「フード・マイレージ」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文には、UDフォントが使用されている。 ○学習を始める手がかりとなる問題として「考えよう」が、学習のめあてとして「めあて」がゴシック太字で示されている。 ○新しい用語はゴシック太字で示され、必要に応じてルビが振られている。 ○右ページ外側に節ごとのインデックスがあり、内容領域で色分けされている。 	
総 括	<p>巻頭で「この教科書の使い方」、「数学の世界へようこそ」、「ノートの作り方」が掲載されている。各章に1か所ずつ、問題発見、問題解決の流れが示されている。本文や章の終わりには、家庭学習に取り組めるように、「力をのばそう」、「活用・探究」、「社会にリンク」などが設けられている。巻末には、生活や学習との関連を図るために、「課題学習」、「MATHFUL」などが設けられている。</p>	

書名 項目	<h1>中学校数学</h1>	1 1 学 図
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ 「Q」では生徒キャラクターの対話を、「例」では適宜ノート形式の解答を示し、模範的な解答の書き方を通して基礎・基本を身に付けられるように工夫されている。「問」では適宜「正しいかな？」を設け、誤りやすい箇所を示している。節末「確かめよう」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ 巻頭「教科書の使い方」で数学的な見方・考え方が示され、「Q」では、それらの用例を提示している。章末「深めよう」、巻末「疑問を考えよう」では、領域横断、教科横断的な学習に取り組むことができるように工夫されている。巻末「表現する力を身につけよう」では、発表の仕方やレポート例が示されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ 章のとびらでは、新しい学習への興味・関心を引き出すための身近な題材が扱われている。章末「できるようになったこと」で自己評価し、「さらに学んでみたいこと」を自分の言葉で記入できるように工夫されている。章末「役立つ数学」では、身の回りで活用されている数学を取り上げている。</p> <p>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ 各章の「数学的活動のページ」では、問題発見から課題解決を通して話し合いをベースに考え、さらに新たな問題を発見する過程が見えるよう、ページの左側に学習過程を示し、対話的な学びが実現できるように工夫されている。本文の展開も、自分たちで見つけた課題「次の課題へ！」から「目標」を発見し、「どんなことがわかったかな」でまとめ、また新たな「次の課題へ！」とつながる構成となっている。</p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○ 「フェアトレード」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○ デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文には、UDフォントが使用されている。 ○ 単元の始めに導入課題としての「Q」がゴシック太字で、「目標」が鍵マークと枠囲みで示されている。 ○ 新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。 ○ 右ページ外側に青色とピンク色のインデックスが章ごと交互にある。 	
総 括	巻頭で「この教科書を使った数学の学び方」、「ノートの使い方」、「単位の書き方」、「QRコードの使い方」が掲載されている。各領域のはじめに、既習事項をまとめた「ふりかえり」のページが設けてある。章の学習の中に「数学的活動のページ」が適宜設けられ、1つの課題に対する問題発見から解決までの過程が示されている。章末には「できるようになったこと」をまとめたページが設けられている。	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学数学</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ 問題形式で既習内容を確認する「学習する前に」が設けられている。節の学習は「Q」、「例」、「例題」、「たしかめ」、「問」により、理解を確かなものにするように構成されている。節末「基本の問題」、章末「学習のまとめ」、巻末「補充問題」では本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ 巻頭で「数学的な考え方」を紹介し、本文でそれらが具体的に示されている。各学年に1箇所「工夫してノートを書こう」のページを設け、思考力や表現力の基礎として、ノートを書く際のポイントが示されている。巻末「学んだことを活用しよう」、「総合問題」では、学んだことを活用する問題が設けられている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ 章のとびらでは、社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を扱い、章の学習の必要性や数学の有用性に触れ、学びに向かうきっかけをつくるように工夫されている。章末「数学の広場」、「数学メモ」では、生徒が興味・関心を抱く課題や数学に関連する知識、数学の歴史的・文化的な話題などを掲載している。</p> <p>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ 学習のプロセスのページを適宜設け、問題発見・解決の数学的活動の一連のプロセスを体験することができるように工夫されている。章末、巻末の「学んだことを活用しよう」では、数学の事象の問題解決、統合・発展の問題が取り上げられている。巻末「数学の広場」では、「気象予報士」、「データアナリスト」など社会や職業の中で、数学が活用されている例を紹介した読み物が掲載されている。</p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○「ポリオワクチン支援」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「まなびリンク」マークが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文には、UDフォントが使用されている。 ○章のはじめに、学習につながる課題「Let's Try」のページが、新しい学習のきっかけとして緑色丸囲み白抜きで「Q」が設けられている。 ○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。 ○左ページ番号脇に章が、右ページ番号脇に節が示されている。 	
総 括	<p>巻頭で「教科書の使い方」、「学習するにあたって」、「数学的な考え方」が掲載されている。章のはじめに、既習事項を振り返る「学習する前に」のページがある。章の学習の中に学習のプロセスのページが適宜設けられ、問題を見いだして解決し、振り返るプロセスが示されている。章末には章の基本的な学習内容を確認するための「学習のまとめ」が、巻末には1年間の学習を振り返る「学びのマップ」が設けられている。</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>未来へひろがる数学</h1>	<p>61</p> <p>啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ 章の学習は「例」で理解し、「例題」を解き、学んだことがらを「問」で確認し、「練習問題」で深めるように構成され、類題を巻末「もっと練習しよう」に掲載している。章末「学びをたしかめよう」、巻末「もっと練習しよう」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ 章のはじめの「ひろげよう」では、新しい学びがはじまるきっかけとなるように工夫されている。学習で働かせた数学的な見方・考え方をページの下部に虫眼鏡のマークで示し、いろいろな場面で活用できるように工夫されている。「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」では、学んだことを表現する活動ができるように工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ 節のはじめに、興味・関心を引き出すための「学習のとびら」が設けられている。章末「数学ライブラリー」では、その章で学習した内容にまつわる読み物が掲載され、興味・関心を高めるように工夫されている。巻末「学びをいかそう」では、日常生活や社会、他教科と数学との関わりを考えることができる題材が扱われている。</p> <p>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ 章のはじめは、日常の事象から新しい学習のきっかけとなる問題を設定する場面が多くなっている。章の中盤には、数学の事象から問題を見だし解決する場面が多くなっている。学んだことを表現する力を身に付けるために、「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」を章の学習の途中に設けている。巻末「学びをいかそう」では、学んだことを利用したり、深めたりすることができる題材が設けられている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○2人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「AEDと救命率」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文には、UDフォントが使用されている。</p> <p>○節の学びがはじまる場面は「節のとびら」で、新しい学びのきっかけとなる問題は「ひろげよう」のマークで示されている。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字でルビが振られている。説明は茶色枠で囲われている。</p> <p>○右ページ外側に章ごとのインデックスが茶色で示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>学校の授業での学びを想定し、表紙からはじまる「みんなで学ぼう編」と、生徒の興味・関心に応じ、さらに力を伸ばす学びを想定し、裏表紙からはじまる「自分から学ぼう編」の2編で構成されている。巻頭で「構成」、「使い方」、「ノートのかふう」が掲載されている。学んだことがらにまつわる読み物として「数学ライブラリー」や、学んだことを役立てて解決する課題「学びを生かそう」が設けられている。</p>	

数学科調査資料 1 - 6

<p>書名 項目</p>	<p>日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学 見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学 探求ノート</p>	<p>104 数 研</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> 各章の前や本文中に既習事項をまとめた「ふりかえり」が設けられている。節末「確認問題」、巻末「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。章末「問題A」、「問題B」は、習熟度に応じてさらに取り組むことができるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> 本冊の「Q」や「TRY」による問いでは、答えを求めるだけでなく、説明する問いかけを多くしたり、対話によって数学的な見方・考え方を可視化したりしている。別冊「探究ノート」では、探究心をのぼす題材で、数学的な見方・考え方を働かせ、問題発見・問題解決の力が高まるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> 巻頭に学び方のガイダンスとして、「学習の進め方」、「ノートのつくり方」、「レポートの書き方」が設けられている。本冊内の章の学習や、別冊「探究ノート」内の「課題学習」では、身の回りの課題を解決する機会を設けることで、数学の有用性を感じられるように工夫されている。</p> <p><数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫> 本冊の「Q」や「TRY」では、生徒に考えさせるよう問いかけ、数学的活動を効果的に取り入れるように工夫されている。巻末では、社会で活用されている数学を紹介している。「数学に関係する英単語」、「天体」、「世界遺産」など、他教科の学習と関連した内容が示されている。別冊「探究ノート」は、本冊で学んだ内容から新たな疑問や課題を見だし、数学的活動を通して主体的に解決を目指す構成となっている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「PM2.5」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「Link」マークが付けられている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文には、UDフォントが使用されている。</p> <p>○活動を通して解決する課題を「TRY」マークで、学習の中で大事にしたい問いかけを「Q」のマークで示している。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に節ごとのインデックスが青で示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>巻頭で「この教科書について」、「学習の進め方」、「ノートのつくり方」が掲載されている。章のはじめには、左ページには既習事項「ふりかえり」が、右ページには学びのきっかけになる章のとびらが設けられている。章末には、生活や学習との関連を図るために、「やってみよう」、「調べよう」などが設けられている。別冊「探究ノート」があり、探究的な内容や課題学習、ワークシートが掲載されている。</p>	

書名 項目	<h1>中学数学</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ 章のはじめに「次の章を学ぶ前に」で、既習事項を確認できるように工夫されている。節の学習は、「Q」、「例」、「問」で構成されていて、基礎・基本の定着のために「まちがえやすい問題」が設けられている。節末「基本の問題」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ 巻頭「数学的な見方・考え方を身につけよう！」では、数学的な見方・考え方を働かせながら学ぶことについて説明されている。各小節では、「大切な見方・考え方」で、それぞれの学習場面で働かせる数学的な見方・考え方が示されている。章末には、記述する力を高める問題として「説明できるかな？」が設けられている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ 生徒キャラクターの言葉で学ぶ意欲を引き出す工夫をしている。章のとびらでは、章の学習への動機付けをする場面が設けられている。章末「数学のたんけん」、巻末「数学を仕事に生かす」、「暮らしと数学」、「数学研究室」では、数学への興味が高まるように、学習内容に関連したコラムや課題が扱われている。</p> <p>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ 日常や社会の事象「身近なことがら」及び数学の事象「数学のことがら」を扱う数学的活動を示した「学び合おう」を適宜掲載している。「学び合おう」の授業展開の後半には、友達の考えと同じところはないか、よりよい解決方法はないかなどを話し合い、より深い理解を得る「話し合おう」が設けられている。巻末「数学マイトライ」では、実社会で活用されている数学を紹介している。</p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○ 「空き缶リサイクル」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○ デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文には、UDフォントが使用されている。 ○ 小節の始めに「めあて」をオレンジ色のゴシック太字で、導入課題「Q」を緑色丸囲み白抜きで示している。 ○ 新しい用語はゴシック太字でルビが振られている。説明は水色枠で囲われている。 ○ 右ページ外側に章ごとのインデックスが青と緑が交互に示されている。 	
総 括	<p>巻頭で、「この本の使い方」、「数学の学習を始めよう!」、「数学的な見方・考え方を身につけよう!」、「ノートのかふう」が掲載されている。章のはじめには既習事項を確認する「次の章を学ぶ前に」が設けられている。活用の場面では、切り取って使用する「対話シート」が設けられている。章末の「数学のたんけん」、巻末の「数学マイトライ」では、生活や学習との関連が図られている。</p>	

数学科 調査資料2

○分量について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	数研	日文
1	総ページ数	1年	312	324	316	332	336	362	324
	※目録に記載された ページ数	2年	250	250	270	280	264	304	254
		3年	284	302	310	306	320	370	296
2 領域別 ページ数	A 数と計算	1年	101	112	117	118	102	108	110
		2年	48	54	59	54	48	54	50
		3年	84	90	89	90	80	82	78
	B 図形	1年	68	74	66	72	68	68	60
		2年	64	70	70	80	64	66	66
		3年	82	82	91	86	82	88	76
	C 関数	1年	40	40	38	37	34	34	40
		2年	38	32	38	34	36	36	36
		3年	34	34	37	32	30	32	34
	D データの活用	1年	24	26	30	24	26	25	34
		2年	34	32	36	39	26	29	30
		3年	14	18	18	17	16	17	16
	課題学習等	1年	79	72	65	81	106	127	80
		2年	66	62	67	73	90	119	72
		3年	70	78	75	81	112	151	92

○領域別教材数等について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	数研	日文
1	総単元数 (章の数)	1年	8	7	7	8	7	7	7
		2年	7	7	7	7	7	7	6
		3年	8	8	8	8	8	8	8
2 領域別 教材数	A 数と計算	1年	4/10/22	3/12/36	3/8/20	4/11/27	3/7/19	3/9/23	3/9/38
		2年	2/4/8	2/6/17	2/4/9	2/4/10	2/4/7	2/4/10	2/4/18
		3年	3/8/17	3/8/30	3/7/17	3/8/19	3/7/15	3/7/18	3/7/27
	B 図形	1年	2/6/13	2/8/30	2/4/10	2/7/13	2/5/11	2/5/12	2/6/20
		2年	2/5/12	2/5/25	2/4/11	2/5/15	2/4/12	2/5/13	2/4/22
		3年	3/7/14	3/9/32	3/7/16	3/8/16	3/8/13	3/6/16	3/6/25
	C 関数	1年	1/4/9	1/4/13	1/4/6	1/4/7	1/4/7	1/3/7	1/4/14
		2年	1/4/9	1/3/9	1/3/6	1/3/7	1/3/6	1/3/7	1/3/12
		3年	1/3/5	1/2/10	1/2/5	1/3/5	1/3/6	1/2/5	1/12/11
	D データ の活用	1年	1/3/4	1/3/9	1/2/4	1/2/6	1/2/3	1/2/4	1/2/9
		2年	2/3/4	2/4/8	2/2/5	2/3/5	2/2/5	2/3/5	1/2/9
		3年	1/1/2	1/2/6	1/1/3	1/2/3	1/1/3	1/1/2	1/1/4

○日常生活や社会のできごとなどを取り扱った例（下記の用語は教科書の表記による）

東 書	1年：待ち時間の予想はできるかな？（比例と反比例） 2年：くじを先に引く？あとに引く？（確率） 3年：渋滞学を学んでみよう（関数 $y=ax^2$ ）
大日本	1年：海外に住む友だちと交流しよう（数の世界のひろがり） 2年：どちらの電球を買う？（1次関数） 3年：パスタメジャーを作ろう（相似と比）
学 図	1年：震源までの距離は？（比例と反比例） 2年：CT スキャンと数学（連立方程式） 3年：丸太からとれる角材は？（平方根）
教 出	1年：気象予報士（正の数，負の数） 2年：輸送計画担当者（1次関数） 3年：都市模型製作者（相似な図形）
啓林館	1年：何分発のバスに乗る？（データの活用） 2年：AEDの重要性がわかるグラフ（一次関数） 3年：魚の数を調べるには？（標本調査とデータの活用）
数 研	1年：降水確率（データの活用） 2年：誕生日が同じ日である人がいる確率（確率） 3年：山頂から見渡せる距離（三平方の定理）
日 文	1年：暗号と素因数分解（正の数と負の数） 2年：1970年の大阪万博の入場者数（データの分析と確率） 3年：風の力（関数 $y=ax^2$ ）